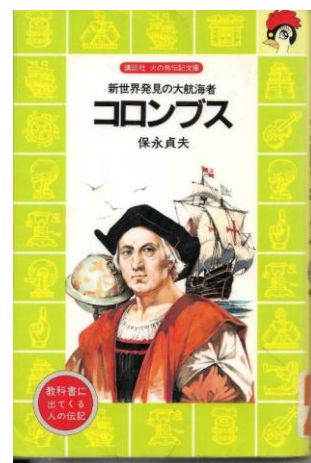
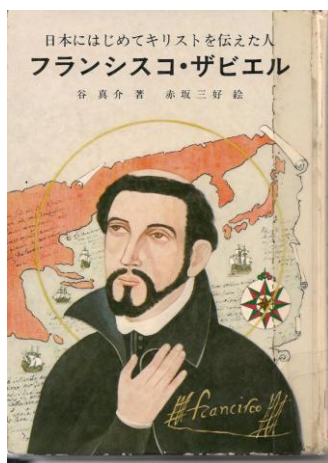
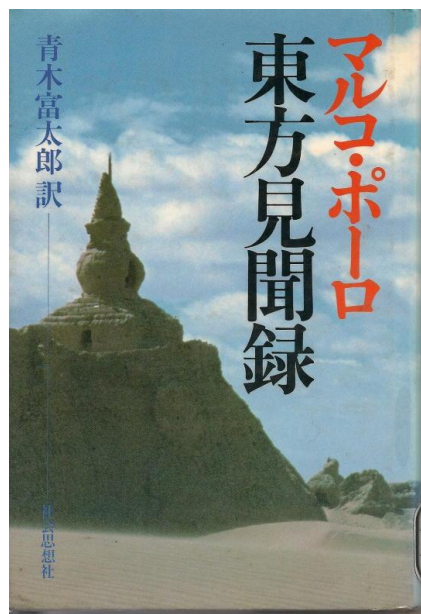
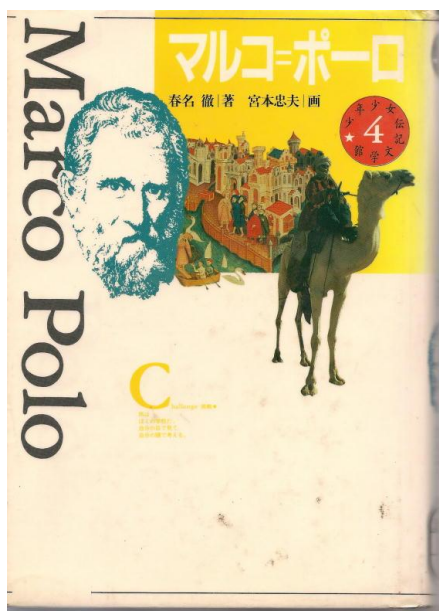


★今回の授業は、外国人が日本を「どのように見たか聞いたか書いたか」そして、その背景は？つまり、歴史の中で世界がどのように広がっていったのか、を垣間見る内容でした。

たくさんの外国人が日本に着目し、日本に影響され・日本に影響をもたらしました。ただ・・・、歴史上の出来事ですから、そのときそのときの方々の本意はわかりません。しかし、残された物事を冷静に複眼的に観察することによって、その真実に近づけるのです。このプロセスが歴史学習の一番の楽しさではないでしょうか。

さて、残された物事とはなんでしょう？ 地名・史跡・石碑・口伝・慣習・地図・書籍・・・。今、私たちがすぐにデスクワークでできることは、読書です。物語や伝記、あるいは解説書。一冊の本からすぐに結論を出してはいけません。本人が書いた本ならば、ある程度その方の真実は伝わってきますが、後年他人が書いたものはその人の解釈が入っています。複眼的に観察せよとは、数多くの関連書籍を読みなさい、ということです。そうすれば推理する材料が増え真実に近づくからです。

今回の授業の参考書籍です。これは一例ですから学校や地域の図書館で更に探してみましょう。



★さて、6年生の歴史学習も近代史現代史に入っていきます。鳥の目・アリの目で眺め見詰め、この先の未来のために、しっかりと過去を推理し考察してください。それは、あなたの主観でいいのです。一人一人の考えや思いが大事なのです。そして、中学高校でも歴史に関わる学びはたくさん待っていますから、あせらず長いライフワークとして歴史を自学してみたいかがでしょうか。

【 村田 正之 】